



## 研究活動一覧

「研究活動一覧」は当所研究員の研究活動と研究内容や関心分野を読者の皆様にタイムリーに提供することを目的としています。研究内容の詳細につきましては直接担当研究員までお問い合わせ下さい。

### 【研究論文および商業誌記事等】

研究員名	表 題	発表誌, 巻・号	発表年月
相川良彦	農業を目指す女性を支援する研修事業 北海道新得町の「レディースファームスクール」	農林経済 9445	2002. 7
石井圭一	フランスにみる経営補助金の展開と地域・環境	農林水産政策研究所レビュー 5	2002. 9
市田(岩田)知子	「エコロジー化」するドイツ農業と直接支払い	農業と経済 68(9)	2002. 8
"	(書評) 天野寛子著『戦後日本の女性農業者の地位 男女平等の生活文化の創造へ』	農村生活研究 46(3)	2002. 9
"	ヨーロッパにおける農業環境政策と生物多様性維持	日本雑草学会第 17 回シンポジウム講演要旨	2002. 9
江川 章	家族経営構成からみた農家と土地利用の特徴	農業問題研究 52	2002. 9
"	新規参入にみる農業経営の創業と支援	農林統計調査 52(9)	2002. 9
香月敏孝	ネギ産地再編をめぐる状況	農林経済 9463	2002. 8
篠原 孝	統計数値に裏付けられた論文	神奈川農林統計 3	2002. 7
"	身近に感じられた映画「走れ! ケッタマシン」	走れケッタマシン応援談(ふるきやらシネマ)	2002. 8
"	地産地消・旬産旬消が日本の食を救う	世界 10月号(706)	2002. 9
清水純一	Soybean Production in Brazil	Farming Japan 36(4)	2002. 8
鈴村源太郎(共著)	公共事業の新技术(PFI)と地域農業振興方策の接点	農業経営研究 40(2)	2002. 9
鈴村源太郎	土地利用型農業における農家以外の農業事業体の新展開	農業問題研究 52	2002. 9
須田文明	地域を守る「経営国土契約」(CTE) フランス	農業と経済 68(9)	2002. 7
橋詰 登	農家構成の変化と土地利用の動向 1990年代後半における農家構造変化の特徴とその要因	農業問題研究 52	2002. 9
林 岳(共著)	環境経済統合勘定による農業の多面的機能評価手法の開発	環境経済・政策学会 2002 年大会報告要旨集	2002. 9

研究員名	表 題	発表誌, 巻・号	発表年月
堀越孝良	食料・農業・農村基本法についての一考察	農林経済 9465	2002. 8
矢部光保	(書評) 寺脇拓著『農業の環境評価分析』	農業経済研究 74(1)	2002. 6
矢部光保・吉田謙太郎	CVM を通して見た農村の資産評価	農業土木学会大会講演会講演要旨集 平成 14 年度	2002. 8
吉田泰治	食品リサイクルに関する経済波及効果の推計	農林水産政策研究所レビュー 4	2002. 7
"	統計に見る日本の農林水産業の変遷	統計 53(8)	2002. 8
渡部靖夫	我が国食品行政のデマケ問題について	日本計画行政学会大会第 25 回全国大会研究報告要旨集	2002. 9

### 【口頭発表および講演】

講演者	講演名	講演会名	発表年月日
市田(岩田)知子	むら研究から学ぶもの むらと政策の関わり の視点から	関東・東北地区研究会(日本村落 研究会)	2002. 8. 2
"	開発途上国における農村生活改善 フィリピンの事例から	第 50 回日本農村生活研究大会 (日本農村生活学会)	2002. 9.18
岡江恭史	Bank Credit and Rural Community in Bach Coc	IIAS (International Institute of Asian Studies) Workshop : Vietnamese Peasants 'Activity, An Interaction Between Culture and Nature	2002. 8.29
香月敏孝	国内外における野菜需給動向と施設生産の 展望 農業センサスからみた野菜生産構造 を中心に	農産物の国際競争下における日本 の施設園芸研究の戦略構築会議 (野菜茶業研究所)	2002. 8.24
篠原 孝	輸入農産物に負けず, 松川町農業が元気を 出す	長野県松川町	2002. 7.20
"	シンポジウムコーディネーター「棚田を活 かす」	第 3 回棚田学会総会	2002. 8. 3
"	安全で環境にやさしい食生活	静岡県浜北市	2002. 8.10
"	シンポジウム「環境を守る農業」パネラー	農業機械学会, NHK 主催	2002. 8.24
"	日本型畜産のあり方	畜産草地研究所研究会	2002. 8.27
"	環境・循環の世界における日本農業	長野県国際農友会	2002. 9.13
"	みつめ, 見なおそう!! 私たちの食生活	東京都東久留米市消費講座	2002. 9.14
立川雅司	The Interaction of Vertical and Horizontal Networks in the Non-GMO Identity- Preservation System	XV World Congress of Sociology (International Sociological Association)	2002. 7.10
中田哲也	Concept of Multifunctionality of Agriculture (農業の有する多面的機能)	RECA セミナー(アジア・アフリカ 農村開発機構)	2002. 7.17

講演者	講演名	講演会名	発表年月日
矢部光保	Introduction of Examples in Qualitative Analysis on Multifunctionality	Report of the Second Experts Meeting of the ASEAN-Japan Project on Multifunctionality of Paddy Farming and Effects in ASEAN Member Countries	2002. 8. 7
吉井邦恒	農業収入の変動状況と安定化対策に関する分析	農業経営安定化政策に関する研究会 (東北大学大学院農学研究科)	2002. 7.26

## 平成 14 年度駐村研究員会議について

日時：平成 15 年 1 月 31 日（金） 10：30～17：10  
 場所：農林水産政策研究所 第 3 会議室（東京都北区西ヶ原）

**共通テーマ：「食の安全と安心の確保のために」  
 4 名の駐村研究員の方から報告予定**

\* 詳細は、後日、ホームページ等でお知らせします。

駐村研究員制度は、当所の前身、農業総合研究所設立の翌年（昭和 22 年度）に創設されました。その後、諸般の事情の変化に伴い、昭和 29 年度および 43 年度に制度運営方法の一部改正、昭和 59 年度に全面的改正が行われ、現在に至っています。

駐村研究員は、農業および農村に関して豊富な知識を有する地方在住者の方で、当所研究員から推薦された候補者の中から所長が任命します。任期は 1 年（概ね 4 年を限度に再任が可能）で、当所の連絡担当研究員と緊密に連絡をとりながら調査研究を進めています。

具体的な委嘱内容は駐村研究員ごとに異なっており、その調査研究活動も「地域農業及び農村に関する情勢報告」等の調査研究報告書の提出や当所研究員の現地調査への参加・協力、駐村研究員会議への参加等多岐にわたっています。その活動は、農村現地における生の情報の収集・整理を主眼としており、その点で当所の調査研究を補完する重要な役割を担うものです。

駐村研究員の研究成果は、駐村研究員会議での報告や「駐村研究員だより」として、『農林水産政策研究所レビュー』に掲載されるほか、当所研究員の論文・調査報告の取りまとめ等への寄与という形で発表されます。

平成 14 年度の駐村研究員は、北は北海道から南は九州までの 15 名で構成されています。例年ほとんどの研究員が参加する駐村研究員会議（昭和 55 年度初回、今年度は第 23 回）では、関係行政部局等からの参加も得て、研究や政策推進上の情報交換と交流を行っています。

（駐村研究員制度運営委員会事務局 研究交流科）